【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 計画

様式１（小・中）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	神埼市立西郷小学校
1　前年度 評価結果の概要	・全職員で共通理解を図りながら教育目標の達成へ向けて取り組んだことで、児童は落ち着いた雰囲気の中で学習に対して主体的に学ぶことができた。 ・校内研究では算数科において、予習的家庭学習「算数チャレンジ」が２年目を迎え定着し、授業の改善を図ることができた。しかし、児童による交流活動や教師の発問の改善などの新たな課題も見えてきた。 ・全職員で児童のよさを褒めて伸ばすように取り組んだことで、保護者の学校への信頼が高まった。今後も、この取り組みを継続していく。
2　学校教育目標	教育目標『ともに学び、ともに伸びゆく西郷っ子の育成』校訓　～学び　愛し　翔る　西郷小～
3　本年度の重点目標	①思いやりを持ち、助け合う子供の育成　②進んで学び、よく考え、自分なりに表現する子供の育成 ③生命を大切にし、生き生きと粘り強く活動する子供の育成　④職員の資質向上へ向けた実践

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的に学び進んで考える児童の育成を目指した分かりやすい授業の実践	○「校内研究を柱として授業力向上に取り組んだ」と回答した職員80%以上。 ○「学習では、自分の考えや意見を友達に話すことができた」と回答した児童が80%以上。 ○「算数科において、予習的家庭学習に取り組むことができた」と回答した児童が80%以上。	・職員間による授業交流や、研究授業などを通して授業力向上に努める。 ・算数科では予習的学習を柱に、主体的に学習に取り組むよう、ペア学習やグループ学習、タブレットを利活用するなどして、児童がともに学び合う授業づくりに取り組む。 ・授業づくりのステップ1．2．3を意識して授業を組み立てる。		・		・		・	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任 ・学び部長
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートにおいて「友達に対して優しい言葉掛けや接することができた」と回答した児童80%以上。 ○保護者、職員のアンケートで肯定的な回答90%以上。	・ふれあい道徳の授業参観を設定し、礼儀、生命尊重、友情信頼、規則の尊重等をテーマにした授業を保護者や地域に公開する。 ・人権週間での読み聞かせ、児童への「ぽかぽかことば」や友達への「さんづけ」の啓発などを通して人権意識を高める。		・		・		・	・道徳教育推進教師 ・人権･同和教育担当者 ・心はぐくみ部長
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○児童アンケートで、「学校は楽しい」回答した児童90%以上。 ○いじめ防止に対して組織的に対応できていると回答した職員90%以上。	・毎月の「心のアンケート」、年2回のいじめアンケート、QUテストの実施分析により、いじめの早期発見や安心安全な学級づくりに取り組む。 ・管理職、担任、SC等、養護教諭が一体となっていじめ事象に対応していく。 ・年2回「お話週間」を設け、担任が児童と面談をする。 ・職員研修を実施することで、開発的生徒指導やいじめ、虐待などについて見識を深める。		・		・		・	・生徒指導主任 ・教育相談担当 ・スクールカウンセラー担当 ・心はぐくみ部長
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上。 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上。	・学期ごとにキャリアパスポートを活用して児童に目標を立てさせ、自身の成長が実感できるように一人一人の児童に声掛け等の指導に取り組む。 ・学校行事、体験的な学習や総合的な学習等を通して、将来の夢や目標につながるよう、「めあて」と「ふりかえり」のある学習活動を意図的に仕組んでいく。		・		・		・	・生徒指導主任 ・心はぐくみ部長
	○特別支援教育の体制づくり	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員80%以上。 ○多様性を認め合う授業を実践した職員90%以上。	・児童の実態や職員の要望などを基に研修会を年間に3回以上実施する。 ・児童に関する情報共有を毎月行い、学校全体で組織的に指導・支援を行う。 ・児童に対して、多様性とその尊重に関しての指導の機会を設ける（月１回以上）。 ・UDに基づく教育環境づくりを目指して、特別支援学級の参観や、職員研修会などを実施する。		・		・		・	・特別支援教育コーディネーター ・心はぐくみ部長
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	「健康に良い食事をしている」児童生徒75%以上	・食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携しICTを利活用した啓発学習を行う。 ・朝食喫食率のアンケートから実態を把握し、朝食摂取の励行を委員会活動等で図る。 ・肥満傾向の児童のご家庭へ個別指導の案内を行い、了承を得られたご家庭に対して情報提供などの支援をする。		・		・		・	・保健主事 ・栄養教諭 ・養護教諭 ・すこやか部長
	○望ましい生活習慣の形成	○「8時間以上の睡眠がとれている」と回答した児童75%、「１日にゲームやテレビを視聴してる時間が1時間以内」と回答した保護者が70%以上。	・11月に生活習慣に関するアンケートを実施し、児童に掲示物等で啓発を図る。 ・保護者へのアンケート（中間、最終）を実施し、保護者への啓発を図る。		・		・		・	・保健主事 ・栄養教諭 ・養護教諭 ・すこやか部長
●業務改善・職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定（毎週金曜日）する。 ・業務記録表とその集計表による振り返りの実施する。 ・見える化を図り、日々の退勤時間の掲示を実施する。		・		・		・	・管理職
	○業務改善へ向けたPDCAの実施	○職員アンケート「業務改善へ向けた取り組みアンケート」における意識調査において、肯定的な回答90%以上。	・本年度の取り組みについてアンケートを実施し、改善点があれば職員全体で話し合い改善する。 ・データの整理とデータベース化を進め、業務効率のアップを図る。 ・校務のデジタル化やペーパレレス化を推進する。		・		・		・	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した職員80%以上。	・講師を招聘し特別支援教育に関する研修会の実施。 ・児童、保護者の困り感に即時対応するためのケース会議の開催、特別支援と交流担任間での情報共有を図る。		・		・		・	・特別支援教育コーディネーター ・心はぐくみ部長

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○人材育成と学び続ける学校風土の醸成	○職員の資質・能力や組織力の向上	○「研修を通して教師としての資質・能力が高まった」と回答した職員80%以上。	・職員として資質・能力の向上、授業力の向上につながるタブレットを活用した学習活動を充実させる。 ・校内研究を中心としながら、若手育成を中心に教科の専門性を高める。 ・OJTによるミニ学習会を開催し、職員の指導力向上を図る。		・		・		・	管理職 研究主任 特別支援Co

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	